

2019年8月18日(日)／説教者：國分美生

説教：「すべての人が満たされる」

聖書：ヨハネによる福音書6：1～15

イエスはご自分を追ってきた人々を青草の上に座らせ、少年が持っていたパンをとり、感謝を捧げてから人々に分け与えられました。五千人以上が食べて満腹した。重要なのは「神によって人々の飢え乾きが満たされた」ということです。これを読んだヨハネ共同体は、40年の荒れ野での生活の中で神がマナによって先祖たちを養ってくださったことを思い浮かべたでしょう。27節以下でイエスは「神が与えるパンは天から下って世に命を与える。そしてその命のパンとはご自分のことである」と明らかにされます。心と体と魂との飢え乾きを癒してくださるのが救い主イエス・キリストである、と。もっと言えば、キリストに対する信頼が私たちの飢え乾きをみたすものである、と。真のパンはイエス・キリストだということです。

ですがイエスは食べ物よりも信仰が大事だ、などという精神論では終わっていません。群衆の真ん中でイエスはパンを分け与えました。みんなが食べて満腹になった。誰一人取り残される人はいなかったのです。イエス・キリストという命のパンが隅々にまでいきわたるとき、すべての者の魂も体も満たされるということ。言い換えればすべての命ある者が必要を満たされ、命を保証され安心していられる時、そこにはイエス・キリストが満ち満ちている。それが神の国の姿といえます。

平和のため、という大義名分のために誰か一部の人たちだけが命や土地や、人生を奪われたとしたら、それは本当の平和ではありません。ここには食べ物は十分あるけれど、あちらでは飢えた人が死んでいくのを目の当たりにした時、それは平和ではありません。平和ではない状態…神の国が来るのを人間が力づくで遠ざけている状態を見てしまった時、私たちは黙っていることができるでしょうか。

敬愛する友たちが差別や侮辱を受けている時、ヘイトスピーチで攻撃されている時。誰かが居場所や食べ物など必要な助けを奪われているのを見た時。世の中に不公平と不平等がはびこっているのを見た時。私たちはイエスのこの五千人の給食の業を思い返したい。人間の目には到底不可能に見える状況のその真ん中にイエス・キリストはおられます。そしてこの世界の隅々に、キリストの業は行き廻り、希望の光は隅々まで照らします。祈りつつ、行動しつつ、平和の主の業に参加していく教会として私たちも歩んでいけますように。  
(国分美生)